



商社マン時代の天野さん(写真右)と同僚。2008年、米国駐在時代のニューヨークオフィスにて。

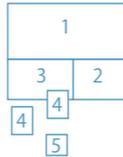
移住者 Profile

農家・天野雅光さん

世界各地を転勤する生活から農家へ転身。家族構成は妻・春美さんとお子さんの3人。

天野さんの移住年表

- 1989年 総合商社入社
- 1997年 結婚
- 2004年 第一子誕生
- 2013年 外資系企業に転職
- 2015年 東京三鷹で週末有機野菜栽培スタート
- 2016年 外資系企業退職
- 2017年 移住、就農

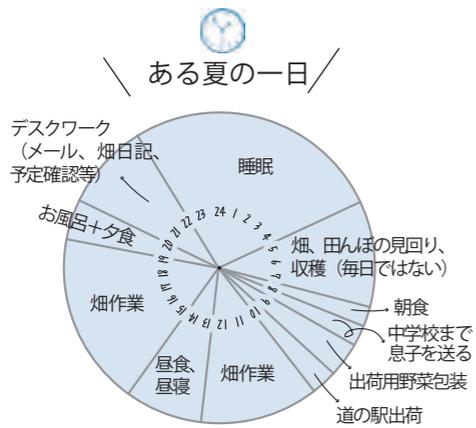


- 1 「農家をはじめ健康になった」と天野さん。9月からは「道の駅つる」にも野菜を卸している。
- 2 空き家バンクを利用して住む一軒家の庭には湧水がひかれています。
- 3 稲穂を手に玄関前でパチリ。「冬は寒いけど夏はエアコンを付けず快適に過ごせます」と。
- 4 1年分あるという自作の米と妻・春美さんが漬けた梅干し。
- 5 料理上手な春美さんが作ったりんごケーキ。りんごの甘みが口に広がる。

最後に移住を考えている人に向けて、「まずは自分の目で確かめることです。あと車は必要だと思います。気に入った地域があれば時季をずらして何度も足を運び、いろんな人に会って話をすることをおすすめします」と話してくれました。

つか持ってそれを楽しみつっ、リスク回避なんてことも視野に入れていきます。中でも今興味があるのは農業の閑散期にできる林業ですね。

そんな充実した日々の中、一番の大きな変化は「家族の時間」だったそう。「今は毎晩家族でご飯を食べていますが、最初の頃は子どもから『毎日いるね』と言われてました(笑)。移住して子どもとの時間が増えましたし、自分が作った野菜を美味しいと言ってくれたときは嬉しかったですね」と満面の笑みを浮かべる天野さん。



Interview

「移住者」に聞く

子育て世代が移住するワケ

安全な食べ物を自分で作るために移住

外資系のサラリーマンを経て、2017年に都内から移住と就農を実現させた天野さん。そのきっかけは「食」と「家族との時間」だったという。「3年前、週末を利用して三鷹で小さな畑を借り、有機農業を学び始めました。そこから農業にハマって安全な食べ物を自分で作りたいと思うようになったんです。それに、仕事が多忙で子どもと会えない時間も多くなって、家でご飯を食べられるのは1カ月に1、2回ほどでした。移住については妻と以前から話をしていて、自然の中で暮らしたいという思いは共通してましたね」。

移住前の準備について伺うと、「やはり、お金は大事なポイント。子どもの教育費、初年度の税金・持ち出し分等、予想される支出の準備は必要ですし、生計が成り立たないと意味がないので計画は大切です」とも。こまめに関東近辺をまわった天野さんは、直感と総合的な判断で移住を決定。移住後は地域のイベントに積極的に参加しているそう。「この人たちは近からず遠からずの距離感。そこがいいなと思うし、実は自治会の集まりに参加したことが縁で農地を見つけることができました。農業は自然相手なのでハプニングの連続ですが毎日が楽しいです。まずは農業に注力して、ゆくゆくは農業だけの収入に頼る形ではなく、他に小さな収入になる仕事をいく





ちびっこ運動会



寺ヨガ



骨ナビ体操講座



にこにこマルシェ



県外・市外からお越しのママ話そう会

移住者 Profile

市民ボランティア・浅川 絵里さん
 栃木県の大田原市から移住。現在は「親子のえがお研究クラブ」のメンバーとしてボランティア活動に従事している。

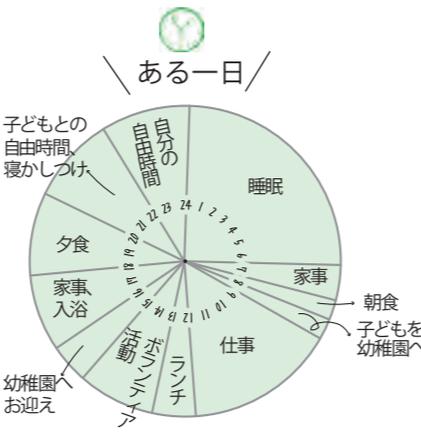
- 浅川さんの移住年表**
- 2013年 浩樹さんと出会い結婚
浩樹さんの実家である都留市に移住
 - 2014年 長男出産
 - 2016年 次男出産
仲間と子育てボランティア「親子のえがお研究クラブ」設立
 - 2017年 事業所と連携してマルシェの開催
 - 2018年 NPO法人設立の勉強、準備

- | |
|---|
| 1 |
| 3 |
| 4 |
| 5 |
- ママたちから「運動会を開催して欲しい」と声をいただき、未就園児でも楽しめる競技を取り入れたイベント。
 - 産前産後のママを対象に、講師を招き骨格バランスを整える体操講座を開催。託児付きでリフレッシュできると好評。
 - 桂林寺の本堂をお借りしてヨガを開催。小さなお子様はスタッフが託児して見守りを行う。
 - 道の駅つるで開催したマルシェで、手仕事が得意なママに活躍の場を提供。子供服の不用品を集めてフリーマーケットも開催。
 - 毎回テーマに合わせて、都留市に来て驚いたこと・出産秘話などを語り合う。同じ立場のママと交流できるイベント。

親子のえがお研究クラブとは

都留市に住んでいる現役ママたちがつくる子育て支援の市民ボランティアです。「現役ママだから気づけること、現役ママだからできること」をスタンスに、ママたちがお互いを励ましあえる場所が「親子のえがお研究クラブ」です。

お問い合わせ 090-2449-9797 (代表者 谷内祐季)
 公式HP <https://www oyakonoeago.com/index.html>



Interview 「移住者」に聞く

子育て世代が移住するワケ

夫の浩樹さんとの結婚を機に県外から都留市に越してきた浅川さんだったが、まわりに知り合いはおらず、ひとり思い悩んだという。「産後、引きこもりになりました(笑)。このままじゃだめだと思い、市役所に相談しましたね。そうしたら子育て支援センターを紹介されました。」

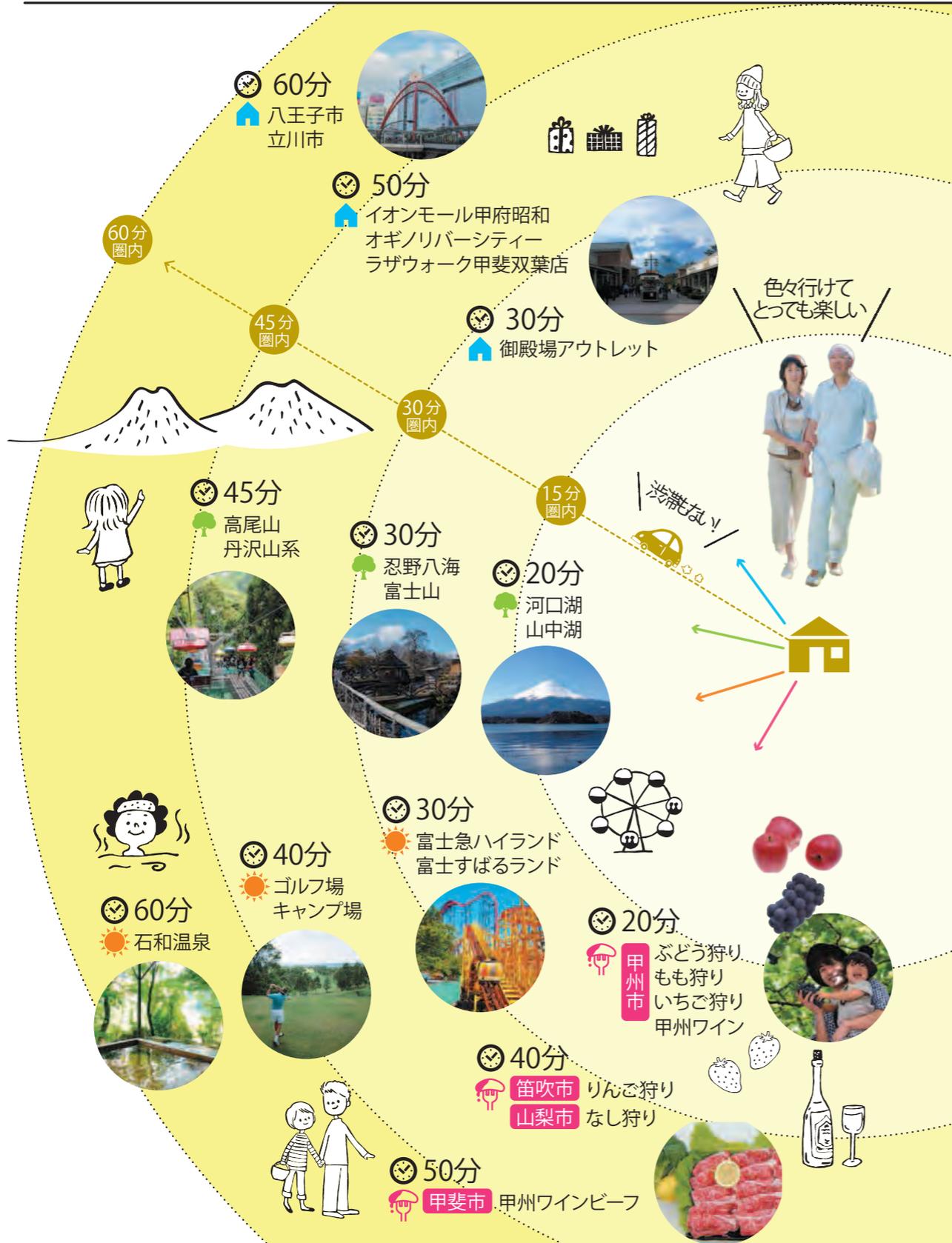
薬にもすがらないでセンターを訪ねた浅川さんは、運命的な出会いを果たす。センターで働く方々に励まされ、そこから一人一人脈が広がりました。私も何かお役に立ちたい。恩返しをしたいと思うようになりましただねと振り返る。

実際に都留市で子育てをはじめたという気づいたこともある。「最初は公園が少ないなと思いました。子どもたちが安全に遊べる施設もほしい。」

そうしたらリアルな声が集まり、やがて大きな輪となって市民ボランティア「親子のえがお研究クラブ」が立ち上がる。現役ママだから気づけること、ママ目線から思いを形にするグループで、浅川さんもメンバーの一人だ。「今では、子どもを『預かる側』の講習を受けています。市の講習は栄養士や助産師など専門家を呼んでくれるので助かっていますね」とうれしそうに話す。

ではこれからの目標はなんだろう。「移住者の中には、私がそうだったように孤独なママがいると思うので、力になってあげたいですね。そして子どもたちが楽しめるイベントを企画していきたいなと目を輝かせた。





ショッピング

山梨県内の大型ショッピングモールだけでなく、御殿場や昭島、八王子といった都内への買い物も60分圏内です。



大自然

富士山は見上げるだけでなく、行く場所でもあるのが都留市です。富士山のほかにも、丹沢山系や高尾山も近いので、山間部のアクティビティを楽しめます。



レジャー&スポーツ

富士急ハイランドをはじめ、30分圏内にはゴルフ場が多数！温泉や富士五湖でのキャンプ、レイクカヌーなど、さまざまなアクティビティが身近です。



グルメ

富士五湖での釣りや湖畔のバーベキューが身近になります。また、山梨県はフルーツの宝庫！もぎ取り体験も各所で開催しているので、旬を楽しむ食生活が送れます。



30分で大自然 60分で都心部へ

魅惑のスポットが こんなに近い！

都留ICから中央高速道路に直接乗り入れできる都留市は、富士山、河口湖といった観光名所はもちろん、首都圏へのアクセスも良好な位置にあります。都心の賑やかさと自然の静寂の両方を堪能できるまちで、贅沢に暮らしてみませんか？